

平成 18 年度短期大学部環境緑地学科緑化企業実習 実習報告書

短期大学部・環境緑地学科

実習先：日産緑化

実習期間：2月5日～2月9日

実習内容：剪定の見学、掃き掃除、昭和記念公園の花壇の管理の見学

実習効果・感想：

今回は実習というより見学が多かったと思う。それで感じたことはこの業界の厳しさである。人件費削減という言葉の連続、下請けの人たちは命に関わるとても危険な現場、仕事。しかし、その中で真剣に仕事に取り組んでいる厳しい姿に社会という場所を知れたと思う。

その下請けの人たちは、見事に自分たちの剪定道具、地下足袋をたくみに扱い、技術が自分たちとぜんぜん違うことに驚いた。時には、大型の機械を使い短時間で一本の木の剪定を終わらせていく。ほんとに驚いた。前文にも、社会という場所を知れたと書いたが、上下関係についても見てきた。今回、2つの下請け造園会社の作業現場を見学したけど、2つとも休憩時間になると、一番若く新しい作業人が真っ先に近くのコンビニへ行って全員の分の飲み物を買ってきて渡してくれた。そういう気遣いというものの大切さも気づけたと思う。

特記仕様書で定められた仕事時間、休憩時間をきちんととり、そのとおりにしなければいけないというところからなど、特記仕様書の大事さを知ることができた。特記仕様書に歩行者側は地面から 2.5 メートル以上、車両側は地面から 4.5 メートル以上の高さまで枝や幹を切らなければならないという規則があって、疑問に思っていたら、それは車両側には大型のトラックが通るからで、車両側は歩行者の身長に合わせて考えてあり、とても納得ができた。企画書というものは、仕事に欠かせない、絶対守らなければいけないものと改めて分かった。

あと、通行人に対する配慮、自分たちの仕事だけに集中できないことがまた大変なことであるのだと感じた。たまにある例として、剪定の枝があたったなどで、賠償金を求めてくる人がいるのだという。実際あったのかははっきりできないことだけど、そのような問題を起こさないためにも通行人への配慮もしなくてははいけないことは大変であると感じた。

今回企業という初めての場所に訪れたが、やはり働くというのは、絶対生半可な気持ちではできない、真剣に取り込まなければいけないということをととても実感できた。

